



青森県感染症発生情報 (2017年第35週)

I 第35週の発生動向 (2017/8/28~2017/9/3)

1. 手足口病については、**県内全ての保健所管内で警報**が継続しています。前週は県全体の定点当たり報告数が減少しましたが再び増加し、特に五所川原保健所管内で大幅に増加しましたので引き続き注意が必要です。
2. 水痘については、**五所川原保健所管内で注意報**が発令されました。県全体の報告数の約7割を五所川原保健所管内からの報告が占めていますので、今後の発生動向に注意が必要です。
3. **RSウイルス感染症**については、県全体の定点当たり報告数は第33週以降増加が続いており、前週の1.05から2.00にほぼ倍増となり、過去5年間の平均と比較してかなり多くなっています。RSウイルス感染症は、患者報告の大部分が0歳児と1歳児で、症状が重くなる場合があるので注意が必要です。
4. **ヘルパンギーナ**については、五所川原保健所管内で定点当たり報告数が第33週以降増加が続いており、警報レベルの開始基準値(6)に近づいていますので注意が必要です。
5. **流行性耳下腺炎**については、県全体の定点当たり報告数が過去5年間の平均と比較してかなり多く、特に三戸地方+八戸市保健所管内で定点当たり報告数が2.60に増加し、注意報レベルの基準値(3)に近づいていますので注意が必要です。
6. インフルエンザの迅速診断キットによる型別の報告はA型2人でした。

II 第35週五類感染症定点把握

※記載データは、速報値です。

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況TOPページをご覧ください。

		東青 (東地方保健所+青森市保健所)		中南 (弘前保健所)		三八 (三戸地方保健所+八戸市保健所)		西北 (五所川原保健所)		上北 (上十三保健所)		下北 (むつ保健所)		青森県計		前週からの増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
小児科 内科	インフルエンザ					2	0.13							2	0.03	2
	RSウイルス感染症	18	2.25	19	2.11	13	1.30	15	3.00	18	3.00	1	0.25	84	2.00	40
小児科	咽頭結膜熱	1	0.13	1	0.11	1	0.10							3	0.07	-4
	A群溶血性球菌咽頭炎	2	0.25	4	0.44	7	0.70	4	0.80	5	0.83	1	0.25	23	0.55	3
	感染性胃腸炎	23	2.88	12	1.33	25	2.50	37	7.40	7	1.17	12	3.00	116	2.76	35
	水痘					7	0.70	21	4.20			1	0.25	29	0.69	26
	手足口病	56	7.00	43	4.78	58	5.80	101	20.20	46	7.67	35	8.75	339	8.07	37
	伝染性紅斑	2	0.25	1	0.11	1	0.10							4	0.10	3
	突発性発しん	3	0.38	4	0.44	7	0.70			4	0.67			18	0.43	5
	百日咳															0
	ヘルパンギーナ	18	2.25	10	1.11	12	1.20	26	5.20	3	0.50	11	2.75	80	1.90	18
	流行性耳下腺炎	2	0.25			26	2.60			8	1.33			36	0.86	6
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎	1	0.50			2	1.00	1	1.00					4	0.36	1
基幹	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎			1	1.00			3	3.00					4	0.67	2
	無菌性髄膜炎			1	1.00									1	0.17	1
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0

は警報、は注意報。「空欄」：患者報告無し。

感染症の窓

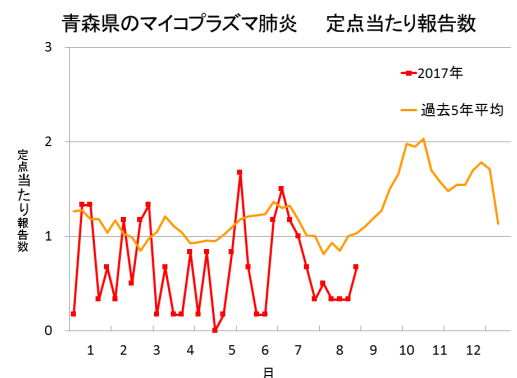
マイコプラズマ肺炎 (五類定点把握対象疾患)

マイコプラズマ肺炎は肺炎マイコプラズマという細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症です。マイコプラズマ肺炎患者の咳のしぶきを吸い込んだり(飛まつ感染)、患者と身近で接触したりすること(接触感染)により感染します。家庭のほか、学校などの施設内でも感染の伝播がみられます。マイコプラズマ肺炎の患者報告は1年を通じてみられますが、冬にやや増加する傾向があります(図)。例年、患者として報告されるもののうち、約80%が14歳以下です。

潜伏期は通常2~3週間で、初発症状は発熱、全身倦怠、頭痛などです。咳は初発症状出現後3~5日から始まることが多く、当初は乾性の咳ですが、経過に従い咳は徐々に強くなり、解熱後も長く続きます(3~4週間)。多くの人はマイコプラズマに感染しても気管支炎ですみ、軽い症状が続きますが、一部の人は肺炎となり、重症化することもあります。

予防策としては、手洗い、手指消毒、うがいなどの一般的な予防方法の励行と、患者との濃厚な接触を避けることが大切です。また、咳の症状がある場合はマスクを着用するなど咳エチケットを守りましょう。長引く咳などの症状があるときは、医療機関で診察を受けるようにしましょう。

○詳しい情報はこちらをご覧ください [マイコプラズマ肺炎に関するQ&A\(厚生労働省HP\)](#)



図：青森県におけるマイコプラズマ肺炎患者報告数の推移(2017年は第35週まで)

III 全数把握対象疾患

- ・結核（二類全数把握対象疾患）：弘前2人、上十三1人（2017年計：201人）
- ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（五類全数把握対象疾患）：八戸市1人（2017年計：13人）

IV 病原体検出情報 ※（ ）内は、検査材料及び検体採取日です。

上気道炎患者（咽頭ぬぐい液、鼻汁、8/8～8/18）・・・コクサッキーウイルス A6型：弘前1人、hRS ウィルス B：むつ1人

無菌性髄膜炎患者（直腸ぬぐい液、8/14）・・・ヒトパレコウイルス 3型：弘前1人

水痘患者（直腸ぬぐい液、鼻汁、鼻腔ぬぐい液、8/14）・・・コクサッキーウイルス A6型：八戸市1人

V 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2017年第32週～2017年第35週）

週	期間	東青 (東地方保健所+ 青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (三戸地方保健所+ 八戸市保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
32	H29.8.7 ~ H29.8.13	腸管出血性大腸菌 感染症1人 梅毒1人	腸管出血性大腸菌 感染症1人	カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感 染症1人	梅毒1人		
33	H29.8.14 ~ H29.8.20	腸管出血性大腸菌 感染症1人		梅毒1人		腸管出血性大腸菌 感染症2人	梅毒1人
34	H29.8.21 ~ H29.8.27			アメーバ赤痢1人	梅毒1人		
35	H29.8.28 ~ H29.9.3			カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感 染症1人			

VI 結核(二類全数把握対象疾患) (2017年第32週～2017年第35週) (人)

週	期間	東青 (東地方保健所+ 青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (三戸地方保健所+ 八戸市保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
32	H29.8.7 ~ H29.8.13	2	1				
33	H29.8.14 ~ H29.8.20	1		1	2		
34	H29.8.21 ~ H29.8.27	1	2				
35	H29.8.28 ~ H29.9.3		2			1	

Ⅶ 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2017年第34週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	オウム病
累積報告数	14570	4	97	2310	25	10	221	192	19	10

分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	回帰熱	コクシジオイデス症	ジカウイルス感染症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症
累積報告数	3	1	2	69	2	2	104	145	178	1

分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	ポツリヌス症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎
累積報告数	3	34	14	1	1041	13	698	186	1023	480

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒
累積報告数	8	132	378	903	42	259	17	2269	202	3571

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
累積報告数	86	78	55	61	176	16

青森県（2017年第35週までの累計）

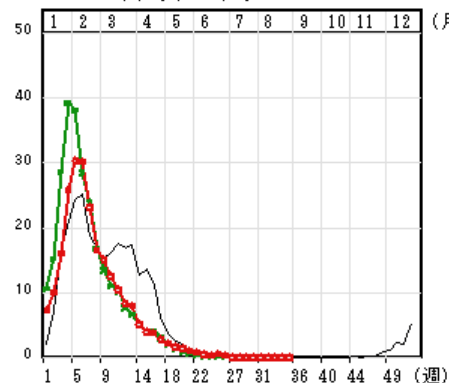
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
累積報告数	201	22	6	2	10	7	4	13	1	2

分類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒
累積報告数	5	1	8	1	51

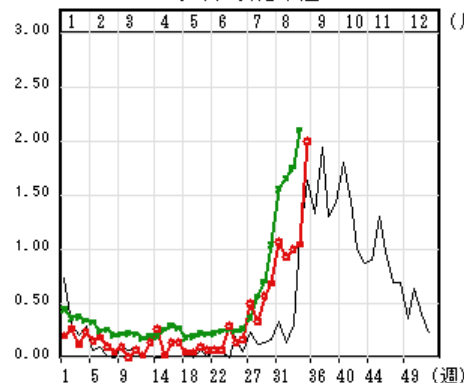
Ⅷ インフルエンザ・小児科定点把握対象疾患週別推移（2017年第35週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ○—○は2017年青森県、——は2016年青森県、×—×は2017年全国

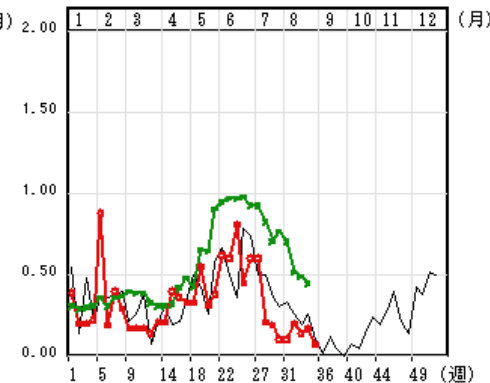
（人/定点） インフルエンザ

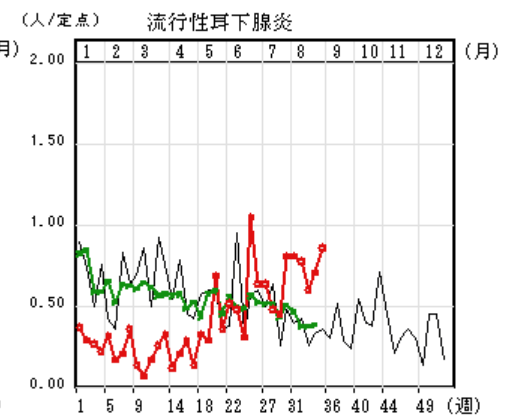
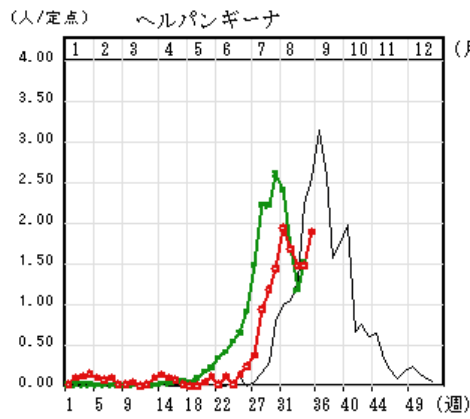
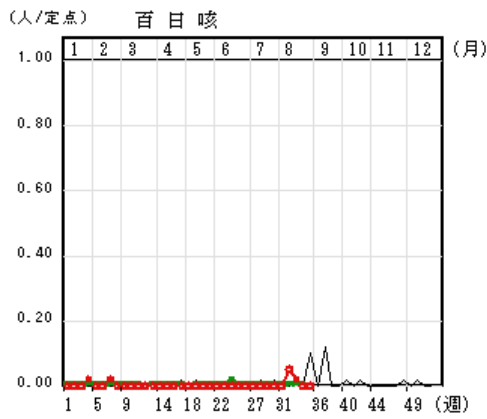
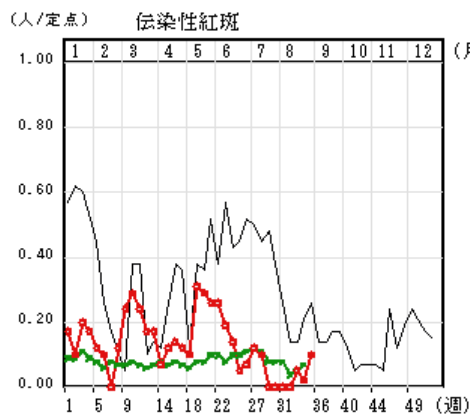
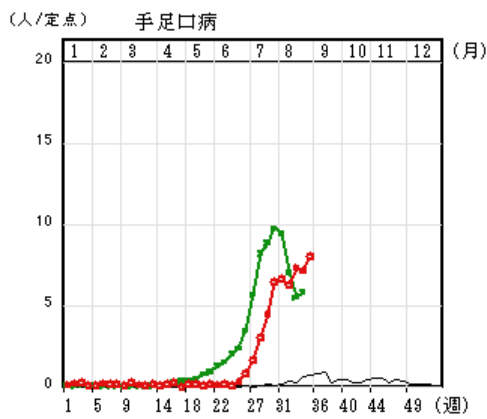
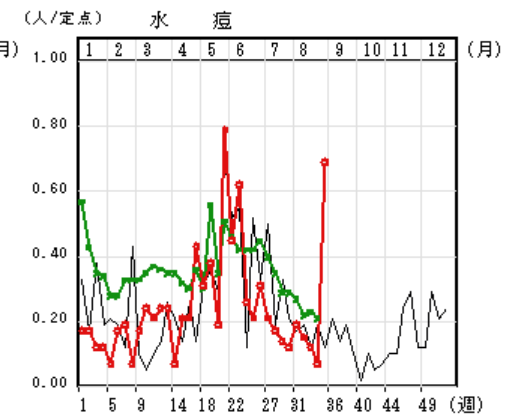
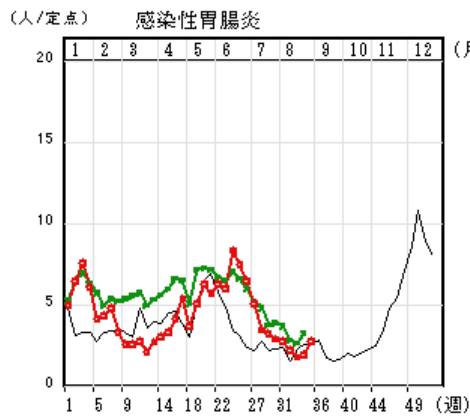
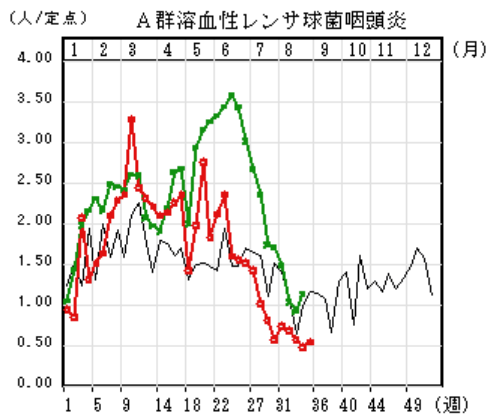


（人/定点） R Sウイルス感染症



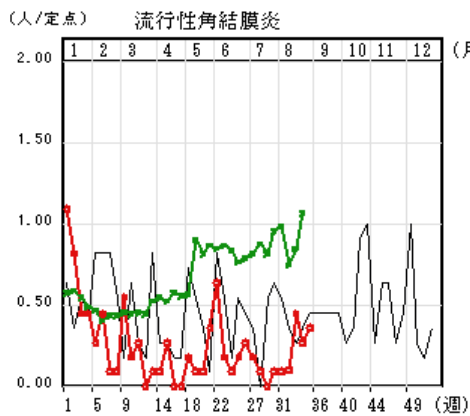
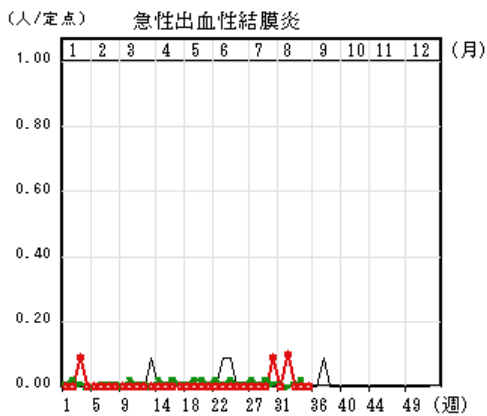
（人/定点） 咽頭結膜熱





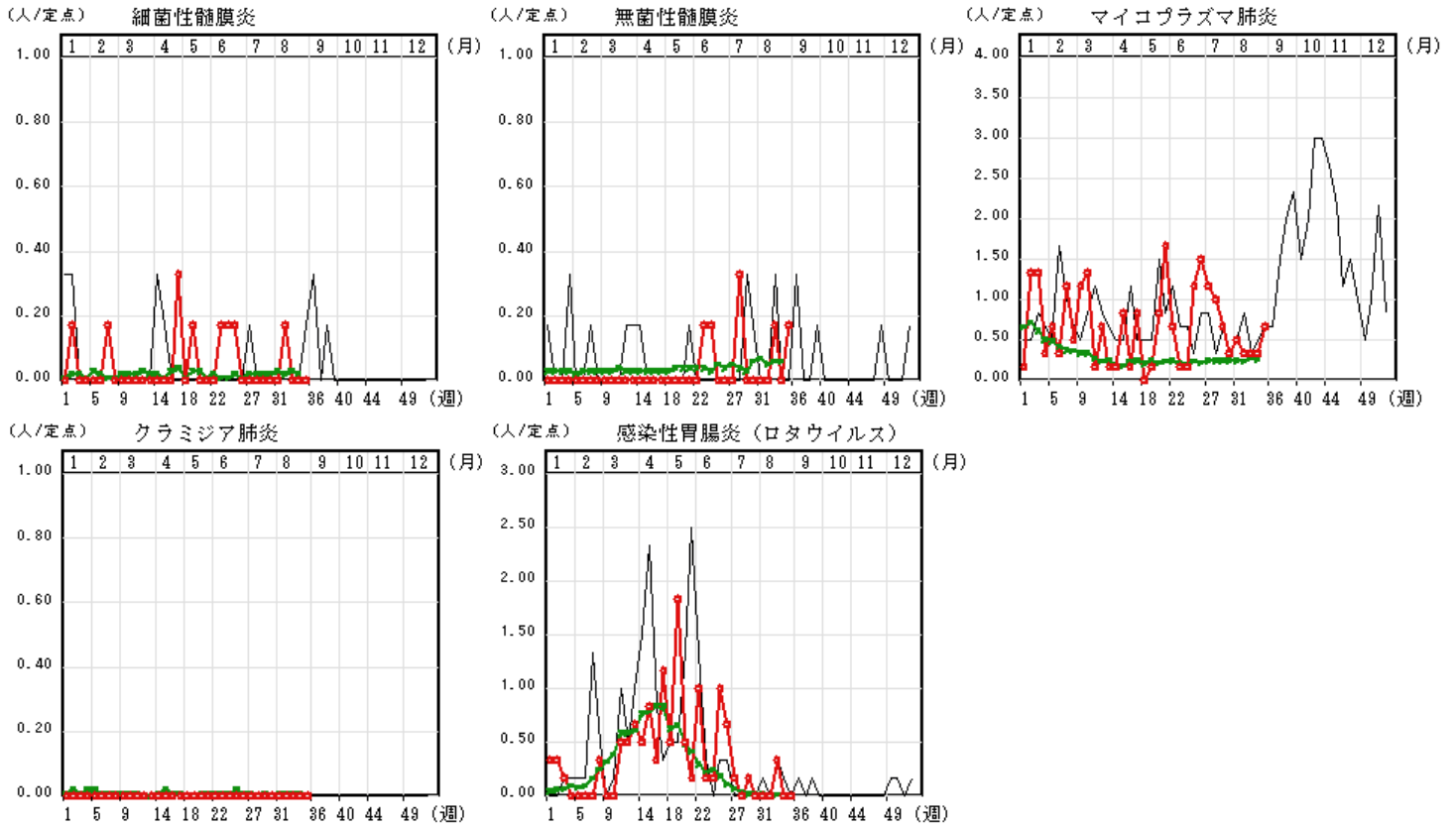
Ⅸ 眼科定点把握対象疾患週別推移 (2017年第35週、ただし全国は前週)

グラフの説明 ○—○は2017年青森県、——は2016年青森県、 ×—×は2017年全国



X 基幹定点把握対象疾患週別推移（2017年第35週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ○—○は2017年青森県、——は2016年青森県、×—×は2017年全国



XI 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

平成29年第35週

報告はありませんでした。

平成29年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計 (施設別)
		1-4週	5-8週	9-12週	13-17週	18-21週	22-25週	26-30週	31-34週	35週	
介護・老人福祉関係施設	件数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	発症者数	0	12	0	0	0	0	0	0	0	12
児童・婦人関係施設等	件数	1	2	1	0	2	0	0	0	0	6
	発症者数	13	48	14	0	44	0	0	0	0	119
障害関係施設	件数	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
	発症者数	0	43	0	38	0	0	0	0	0	81
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計(月別)	件数	1	4	1	1	2	0	0	0	0	9
	発症者数	13	103	14	38	44	0	0	0	0	212